

「今年も熱戦の予感！」



危なげない勝利で開幕戦を制した #70



侮れないポテンシャルを発揮して初表彰台 #11



中盤にタイヤ交換をしながらもさすがのレース巧者 #92



チーム関係者によるとストレートは伸びる #67

2014K 耐久/GT 耐久東海シリーズの今シーズンが開幕、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。毎戦接戦となるこのシリーズ、今年もアツい戦いの予感。早春の蒲郡地方は最高気温が 20 度に届こうかという、最高の舞台を用意した。

「1+2C」クラス（1500cc 以下の NA 車と、1200cc 以下の過給機付き車、1501cc～1600cc の NA 後輪駆動車のクローズドクラス）

昨年衝撃的デビューを飾り、驚異の速さでシリーズタイトルを獲った「菱木シビック」のインパクトは大きく、あっという間に主力となった VTI シビック。開幕戦には #77「トータルセブン GT シビック」と EG4 の #98「むちむちプリンシビック」が出場、EG 型のポテンシャルはいかに。また #67「CRAZY FORCES VEX」の DY5W デミオ、#11「ガレージアンリミテッド マーチ」は AK12 とニューカマーが続々参戦。

■予選

今年最初の予選トップは #77「トータルセブン GT シビック」1' 05.994、#92「ワンナイヴィッツ」が 1' 07.381 で続く。予選 3 番手になったのは #67「CRAZY FORCES VEX」のデミオ、ベースは 1500 のスポルトで他社パーツの流用などでチューニング。チーム関係者によると”他と違うから面白い”とのこと。タイムは 1' 09.562 ともう少し詰めたところ。4 番手はこれまた初参加マシン #11「ガレージアンリミテッド マーチ」、初めてのコースということで、手探りながら 1' 11.638 を記録。5 番手は EG4 #98「むちむちプリンシビック」、トラブルで少々出遅れたか、1' 25.706 で最後尾のグリッドにつく。

■序盤

序盤は #92「ワンナイヴィッツ」を軸とした展開、さすが去年は優勝一回、シリーズ 3 位の成績を残したチーム。リッターマシンの走らせ方を熟知している。それを #77「トータルセブン GT シビック」が持ち前の速さを活かして追いつける。#67「CRAZY FORCES VEX」と #11「ガレージアンリミテッド マーチ」、#98「むちむちプリンシビック」のニューマシン勢もコースに慣れ自分のペースを確立してきたようだ。

■中盤

中盤でトップを走るのは、地力に勝る #77「トータルセブン GT シビック」。じわじわと差を広げて首位固めを狙う。一方 2 番手争いが激化、#98「むちむちプリンシビック」こそ思うように紹介が増していないのが気がかりだが、#92「ワンナイヴィッツ」、#67「CRAZY FORCES VEX」、#11「ガレージアンリミテッド マーチ」の 3 台が 1Lap 差の中にひしめく。軽量コンパクトでハンディのあるヴィッツか、意外にストレートが伸びるデミオか、バランス重視のマーチか、排気量・メーカー・車種の違う 3 チームがそれぞれの特徴を生かしての争いは見ごたえがある。これに #98「むちむちプリンシビック」が復調すればかなり面白いクラスとなるはず。#92「ワンナイヴィッツ」と #98「むちむちプリンシビック」は中盤にタイヤ交換を敢行する。

Race Report



■終盤

終盤にかけてもトップを守る#77「トータルセブン GT シビック」だが、#11「ガレージアンリミテッド マーチ」もじわじわと追いついて、残り 30 分の時点では#77 の 105Lap に対し、#11 が 103Lap となり、その差は 2 周。3 番手の#92「ワンナイヴィッツ」は 100Lap、4 位#67「CRAZY FORCES VEX」も 99Lap と思いのほか接戦となっている。中盤周回が伸びず心配された#98「むちむちプリンシビック」も 86Lap とペースを取り戻しつつある。

残り 30 分、開幕戦ならではの緊張感を持って、集中してゴールに向かいたい。

■最終結果

優勝は#77「トータルセブン GT シビック」、2 位以下とのギャップをうまく調整してのほぼ文句のない勝利、さすがのレース巧者ぶり。2 位は初物つくして乗り込んだ#11「ガレージアンリミテッド マーチ」が初表彰台、3 代目マーチのポテンシャルを見せた。3 位は#92「ワンナイヴィッツ」、こちらも実力を発揮して見事 2013 年の第 3 戦以来の表彰台。4 位は#67「CRAZY FORCES VEX」、マイナー車ながら鮮やかなオレンジのカラーと同様に随所に光るものを見せての 4 位。5 位#98「むちむちプリンシビック」は序盤の出遅れを挽回しての、100Lap 越えを記録して見事完走を果たした。

■総評

昨年吹き荒れた 1500 シビック旋風のおかげで、VTI 一色になるかと思われた開幕戦だったが、予想に反して K12 マーチとデミオというニューカマーが参戦しバラエティに富んだものとなった。マーチはレース中の最速タイムは 06 秒台前半を刻み、速さでも勝負できることを証明した。また EG 型の VTI も 06 秒台とこちらもまずまず、デミオは速さの面では一歩及ばなかったが、今後の熟成に期待したい。

今季の新レギュレーションとなる後輪駆動マシンの参加はなかったが、それは次回以降のお楽しみとしたい。



EG4 にも VTI はある #98



コンパクトハッチ対決





昨年の最終戦に続き連勝 #87



予選 2 位から決勝も 2 位 #450



久々の表彰台 #75



#106 との僅差のバトル！ #111



今回はトラブルなく見事完走 #106

「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクロズドクラス）

3Cクラスは、今回も盛況で9台のエントリー。昨年は同点で優勝回数の差でシリーズタイトルが決まるという大激戦で終えたこのクラス。今シーズンの開幕も主だった有力チームが顔をそろえ、初戦からアツいバトルの予感。

■予選

予選トップは昨年の優勝チーム、#62「WN CLNシビック」が 1' 02.402 を記録。その横には#450「トルネオの大冒険」1' 02.687、チーム関係者が「狙っていた」という予選トップにはわずかに及ばなかったが、02 秒台入りは好タイム、速さを増してきた。予選 3 番手は#33「ボディショップ國盛ミラージュ」1' 03.245、昨年は同ポイントながら優勝回数で涙をのんだ。今年こそはの思いも強い。

予選 4 番手は、#87「瀬戸自動車 SYC シビック」1' 03.281、こちらも昨年ランキング 3 位の強豪。しかもシリーズチャンピオンとは 5 ポイント差という実力の持ち主、虎視眈々と今年にタイトルを狙っている。

5 番手の#1「ミュルサンヌ MR-S」は唯一の MR、タイムは 1' 03.307 と昨年に比べ大幅ジャンプアップ。冬の間の改良とトレーニングがきいたのかトップ争う速さを身に付けてきており注目の存在。6 番手は#106「D&M スパイクオート 106」1' 03.448、昨年しばしば起きたトラブルが解消されていれば怖い存在。

7 番手#111「S' tecAE-1 ファジートレノ」1' 03.853、昨年のランキングは 4 位。力のあるチームだが、マシンポテンシャル的にドライコンディションでは少し不利か。8 番手、#75「DXL シーワン EP82」1' 05.639、クラス唯一のターボ車、2012 年にはランキング 2 になったチーム。9 番手は#107「トータルセブンロードスター」、昨年までの NA 型に代えて NB 型で参戦、若手ドライバー中心の布陣で、1' 12.579 を記録し予選通過。

■序盤

まず最初のスティントで首位に立ったのは、#62「WN CLNシビック」。それを#87「瀬戸自動車 SYC シビック」と#450「トルネオの大冒険」が追う。以下、#1「ミュルサンヌ MR-S」、#111「S' tecAE-1 ファジートレノ」、#106「D&M スパイクオート 106」あたりはダンゴ状態。#33「ボディショップ國盛ミラージュ」と#75「DXL シーワン EP82」は早めに義務ピットを終える作戦か。気になるのは#107「トータルセブンロードスター」、トラブルのようでピットでの整備が続く。

■中盤

レース中盤でトップに立ったのは、#87「瀬戸自動車 SYC シビック」。総合でも首位を走る。上位勢で注目なのは、#1「ミュルサンヌ MR-S」と#450「トルネオの大冒険」。#1 MR-S は見た目でもわかる軽量パーツをはじめとする改良でスピードアップ。#450 トルネオも同じく軽量化に注力、車内はほとんど何も残っていない。それでもまだ重いとのことでこの辺りが課題とチームスタッフは話す。

レース開始一時間ほどで、予選トップの#62「WN CLNシビック」に異変。ドライブシャフトが破損とのことでリタイヤとなってしまう。また、#107「トータルセブンロードスター」もエンジンが吹けない症状が改善されずピットインを繰り返す。リタイヤも考えられたが、若手ドライバーに経験を積ませるという決断をチームが下す。他のマシンに迷惑をかけない範囲で、ゴールを目指すこととなった。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

次に不運に見舞われたのは#1「ミュルサンヌ MR-S」。中盤まで上位を走行するも、リヤタイヤが外れるトラブルで第3ヘアピンのイン側に乗り上げてしまう。加熱したブレーキ周りから出火という事態も重なり、残念ながらリタイヤ。ここまで印象的な走りを見せていただけに残念。また、#33「ボディショップ國盛ミラージュ」もリタイヤとこちらも残念な展開となってしまった。

そんな終盤でトップをキープするのは#87「瀬戸自動車 SYC シビック」、それを1Lap 差で#450「トルネオの大冒険」が追う。3位を#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」、#75「DXL シーワン EP82」、#106「D&M スパイクオート 106」が争う。走行続行を決めた#107「トータルセブンロードスター」もチェッカー目指して走る。

■最終結果

少なりタイヤが重なったこのレースを制したのは#87「瀬戸自動車 SYC シビック」、総合2位に入る周回数が昨年の最終戦に続く優勝を飾った。2位には#450「トルネオの大冒険」、耐久だとペースが落ちるとのことだが、昨年の第2戦以来の2位表彰台はお見事。3位はこちらも久々、一昨年の最終戦以来2シーズンぶりの表彰台に#75「DXL シーワン EP82」が上った。

4位は#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」、定位置ですかね(笑)とチーム関係者が言うように表彰台まであと一歩。5位は#106「D&M スパイクオート 106」、昨年の最終戦は完走扱いだったので、見事チェッカーを受けるのは第3戦以来。ここまですべて完走、#107「トータルセブンロードスター」は完走扱いにはならなかったが最後まで走り切り、貴重な経験を得たに違いない。

■総評

さまざまな車種が参加する、現在一番熱いクラスが3C。注目は#450「トルネオの大冒険」、耐久だとペースが落ちるとのことだが、レースラップは02秒前半半に入れ優勝の可能性も見せた。また、今回は残念な結果になってしまったが、#1「ミュルサンヌ MR-S」も注目、MR車という選択も個性的で#107のロードスターともどもオープンで楽しむサンデーレースもよいものだ。



予選3番手スタートも残念ながらリタイヤ #33



最後まで頑張った #107



最後は惜しかったが、速さはアップ #1



こちらもリタイヤで残念 #62





総合優勝で花を添えた #19



2 位は韋駄天が自慢 #18



初優勝は次回のお楽しみ #15



「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

昨年は、シリーズリーダーがリタイアで、#110「DXLアライメント浜松シティー」が逆転チャンピオンで2連覇のシーズンとなったが、今シーズンの戦いはいかに。

■予選

予選は#15「キチキチ キッシースターレット」1' 01.543 で初の PP ! これまでの最高位は昨年最終戦の 2 位、あと残すは表彰台の中央のみ。そうはさせじとコンマ 2 秒差でフロントローに並んだのは、#19「YADOKARI シビック」1' 01.815、さらにすぐ後ろには、#18「T-BODY エクセルインテグラ」1' 01.883、#110「DXLアライメント浜松シティー」1' 02.123 といった猛者たちがセカンドローに陣取る。

■序盤

序盤まずトップ争いをしたのが#19「YADOKARI シビック」と#18「T-BODY エクセルインテグラ」。#15「キチキチ キッシースターレット」も負けじと食らいつく。#110「DXLアライメント浜松シティー」はスタート早々なんと 10Lap でリタイア、有力チームの一つが姿を消すことになってしまった。

■中盤

中盤は白熱した戦い、上位 3 台が 2~3Lap の差で争う。ピットストップのたびに順位を入れ替えながら#19「YADOKARI シビック」、#18「T-BODY エクセルインテグラ」、#15「キチキチ キッシースターレット」が接戦を展開。
#15「キチキチ キッシースターレット」が勝てば悲願の初優勝、#19「YADOKARI シビック」はドライバーの一人が転居ということで、優勝で送り出したいと燃える、さらに韋駄天自慢の#18「T-BODY エクセルインテグラ」も一昨年最終戦以来の優勝を狙う。

■終盤

終盤においてもトップ 3 の構図は変わらず、アツい戦いが続いている。そんななかで#19「YADOKARI シビック」がピットロード速度違反のためドライビングスルーペナルティとなって、#18「T-BODY エクセルインテグラ」が詰め寄る。残り 30 分の段階では#19「YADOKARI シビック」112Lap、#18「T-BODY エクセルインテグラ」111Lap とその差は 1 周、#15「キチキチ キッシースターレット」も 109Lap とまだまだあきらめてはいない。

■最終結果

どのチームも負けられないプライドをかけた戦いだったが、チームメイトを勝利で送り出したい#19「YADOKARI シビック」が踏ん張って優勝、総合でもトップでチェッカーを受けた。#18「T-BODY エクセルインテグラ」もレース中の最速タイムは 00 秒台を記録するなど相変わらずの韋駄天ぶりを見せつけて、同一周回まで追い込んでの 2 位、#15「キチキチ キッシースターレット」の初優勝は次回以降への持ち越しとなってしまったが、見事に 3 位表彰台を獲得した。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■総評

有力チームの一つ#110「DXLアライメント浜松シティー」がレース序盤早々でリタイアしてしまったのは残念だが、3台によるバトルは見ごたえのあるものだった、レース中のラップタイムは00秒台に入れた#18「T-BODY エクセルインテグラ」を筆頭に、あとはすべて01秒台という高いレベルで、改造車クラスの速さを見せた開幕戦だった。

東海を去るチームメイトのためと走った#19「YADOKARI シビック」は2011年シーズン以来の勝利を見事に総合優勝で飾り去りゆくチームメイトに花を添えた。今回初のPPをとった#15「キチキチ キッシースターレット」も、サンデーレースでは少数派のスターレットターボのポテンシャルをひき出し、優勝まであと一歩までいう走りが印象的、さらにかつては優勝かりタイヤかとなっていた#18「T-BODY エクセルインテグラ」もしっかりとポイントを獲得するなどそれぞれに意義のあるレースを展開。

さらに、今後は有力チームの参加も期待できるなど、アツきバトルが待ち遠しい。



序盤いきなりのリタイア・・・ #110



初PPを獲得！！



とったど～！！

